

文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

目的 海外の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。国際情勢に鑑みつつ優先度の高い国の文化遺産保護関連の法令について条文を和訳し、法令集として刊行する。また世界遺産委員会などユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、文化遺産の保護をめぐる今日的な課題等に関する調査研究を行い、その成果をインターネットなど多様な媒体を通じて国内外に情報発信する。

成果

1. 文化遺産保護に関する情報収集のための国際会議やシンポジウム等については、世界遺産委員会等のように新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催されなかった、あるいは第94回国際文化財保存修復研究センター理事会のようにオンライン開催に変更された。オンライン開催については、これに参加して情報収集を行った。
2. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、英国政府担当者に依頼した英国の文化財保護制度の概説を含む『各国の文化財保護法令シリーズ[25]英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)』として刊行した。
3. 例年行っている「世界遺産研究協議会」については開催せず、次年度と併せた2カ年での実施として、今年度は概念及び論点の整理を行って報告書の形で刊行した。

刊行物・『各国の文化財保護法令シリーズ [25] 英国 (グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)』東京文化財研究所 21.3

- ・『世界遺産研究協議会「整備」をどう説明するか(第1部)』東京文化財研究所 21.3
- ・『Attributes -a way of understanding OUV-』Japan Center for International Cooperation in Conservation, Tokyo National Research Institute for Cultural Properties 21.3

研究組織 ○西和彦、境野飛鳥、藤澤綾乃、石田智香子(以上、文化遺産国際協力センター)、二神葉子(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)

世界遺産研究協議会 (④コ01の一部として実施)

「文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信」プロジェクトで行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するための研究協議会については、我が国の文化財保護における「整備」を対外的にどのように説明するかというテーマに関して開催する予定であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮して開催せず、次年度と併せて2カ年の予定とし、今年度は必要となる概念や論点の整理について専門家に寄稿を依頼して、報告書として刊行した。

研究会「東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理」(③コ02の一部として実施)

平成28年度から東南アジアの木造建築をテーマに連続して開催してきた研究会の最終回として、東南アジアにおいて木造建築遺産の保存修理に用いられている手法の特徴やその背景にある考え方などを明らかにすることを目的に開催した。当初は2020(令和2)年3月の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う渡航制限により延期を余儀なくされ、11月にオンラインでの開催となった。研究会には当地で文化遺産保護に携わる実務家の参加を得て、実際に行われている木造建築保存の様々な方法や技術に関する講演を行ってもらい、パネルディスカッションでは東南アジア各国だけでなく日本の木造建築保存の考え方や双方での方法論の違いを比較分析する観点からの議論を行った。

日 時：2020(令和2)年11月21日(土) 14:00～17:10

会 場：オンライン(Zoom) / 東京文化財研究所 地下会議室

使用言語：日本語・英語(逐次通訳 山内奈美子、金出ミチル)

参加者：56名(最大同時視聴者数46名)

プログラム：趣旨説明 金井健(東京文化財研究所)

講 演 ポントーン・ヒエンケオ(タイ王国文化省芸術局建造物課)

「タイにおける木造建築遺産の保存修理」

セントン・ルーヤン(ルアンパバーン世界遺産事務所)

「ラオスにおける木造建築遺産の保存修理」

モンティラー・ウナークン(ユネスコバンコク事務所)

「国際的視点から見た東南アジア木造建築遺産保存修理の現状と課題」

パネルディスカッション

モデレーター 友田正彦(東京文化財研究所)

パネラー 中内康雄(公益財団法人文化財建造物保存技術協会)、ポントーン・ヒエンケオ、セントン・ルーヤン、モンティラー・ウナークン

刊行物：『東南アジアにおける木造建築遺産の保存修理 研究会記録 / Conservation of Wooden Architectural Heritage in Southeast Asia Proceedings』東京文化財研究所 213

総合研究会(④シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和2年度は下記のスケジュールで開催した。